

平成31年度
事務事業評価シート 【事後評価】

会計	款	項	目	事業コード	事業名	
01	05	01	02	154030	勤労者福祉向上事業費	
総合計画	分野	01	しごと	政策	06 雇用環境の充実	
	施策	02	勤労者福祉の向上			
目的	勤労者の福祉向上のため、福利厚生及び資金面の支援を行う。					
対象	勤労者及び中小企業					
意図	勤労者及び中小企業の福祉の向上					
事業概要	勤労者福祉推進 4,544千円 花巻共同福祉施設管理運営補助金 中小企業退職金共済事業補助金 勤労者資金貸付 80,000千円 勤労者貸付の預託金 資金の種類（教育資金の協調倍率は2倍）					
市民参画の有無	対象外					
市民協働の形態	共催	実行委員会・協議会	事業協力・協定	後援・協賛	補助・助成	委託
活動指標		単位	区分	H30	H31	R02
1	中小企業退職金共済補助金交付者数	人	計画	1,200.00	1,200.00	
			実績	1,169.00	1,189.00	
2	勤労者資金貸付預託金	千円	計画	80,000.00	80,000.00	
			実績	80,000.00	80,000.00	
3	花巻市共同福祉施設の利用日数	日	計画	150.00	150.00	
			実績	150.00	282.00	
成果指標		単位	区分	H30	H31	R02
1	中小企業退職金共済加入者数	人	目標	2,800.00	2,800.00	
			実績	2,926.00	2,953.00	
2	融資を受けている勤労者数	人	目標	100.00	100.00	
			実績	75.00	79.00	
3	花巻市共同福祉施設の利用者数	人	目標	6,000.00	6,000.00	
			実績	5,798.00	6,807.00	
成果指標の達成度		目標値より高い		概ね目標値どおり		目標値より低い

成果指標の達成度の要因分析（成果指標を設定しない場合は、その理由を記載）		
中小企業退職金共済事業補助金については、共済契約事業者へ補助金申請手続きを促し、共済加入者数の増加を図ることができた。 勤労者資金貸付の融資を受けている勤労者数については、教育資金のみの受付であったものの引き続き需要があったことから前年比でほぼ横ばいとなる。		
目的妥当性	公共関与の妥当性	勤労者を対象とした福祉向上に資する事業は他にないため、市が関与して取り組む必要がある。
	妥当である	
	見直し余地がある	
	妥当でない	
有効性	成果の向上余地	勤労者のニーズに合わせて、福祉向上に繋がる支援策の充実を図ることで成果が向上する
	向上余地がある	
	向上余地がない	
効率性	事業費・人件費の削減余地	補助金の交付が主であり、必要最小限で行っているため、削減の余地はない。
	事業費の削減余地がある	
	人件費の削減余地がある	
	どちらも削減余地がない	
公平性	受益と負担の適正化余地	市内全体の勤労者や中小企業を対象としているため、受益機会は均等である。
	受益機会の見直し余地がある	
	費用負担の見直し余地がある	
総合評価	今年度の振り返り	中小企業退職金共済の加入企業は増加していることから、引き続き周知を図り、中小企業の振興と労働者の福祉の増進の促進が求められる。
	次年度に向けて	勤労者貸付については、民間金融機関等の金利動向を確認しながら勤労者のニーズにあった貸付制度としていく必要がある。

平成31年度
事務事業評価シート 【事後評価】

会計	款	項	目	事業コード	事業名		
01	05	01	01	154060	勤労青少年講座開催事業費		
総合計画	分野	01	しごと	政策	06 雇用環境の充実		
	施策	02	勤労者福祉の向上				
目的	勤労青少年の福祉向上のため、各種講座を開催する。						
対象	勤労青少年						
意図	福祉向上						
事業概要	各種講座の開催 2,557千円 教養講座（41講座）、スポーツ講座（17講座）						
市民参画の有無							
市民協働の形態	共催	実行委員会・協議会	事業協力・協定	後援・協賛	補助・助成	委託	
活動指標			単位	区分	H30	H31	R02
1	講座開催回数	回	計画	230.00	240.00		
			実績	233.00	220.00		
2			計画				
			実績				
3			計画				
			実績				
成果指標			単位	区分	H30	H31	R02
1	講座受講者数	人	目標	1,400.00	1,300.00		
			実績	1,441.00	1,097.00		
2			目標				
			実績				
3			目標				
			実績				
成果指標の達成度	目標値より高い		概ね目標値どおり		目標値より低い		

成果指標の達成度の要因分析（成果指標を設定しない場合は、その理由を記載）		
勤労青少年の健全な余暇活動を推奨する目的で多様な嗜好に見合った講座の企画を通じ、青少年ホームの利用者の増加や会員間の交流の機会創出が図られた。 なお、前年度比で講座の開催回数は微増であった反面、受講者数は会員に向けて参加を呼びかけたものの減少となった。		
目的妥当性	公共関与の妥当性	勤労青少年を対象とした福祉向上に資する事業は他にないため、市が関与して取り組む必要がある。
	妥当である	
	見直し余地がある	
	妥当でない	
有効性	成果の向上余地	受講者のニーズに合わせて、福祉向上に繋がる支援策の充実を図ることで成果が向上する。
	向上余地がある	
	向上余地がない	
効率性	事業費・人件費の削減余地	必要最小限の事業費で運営しており、削除の余地はない。
	事業費の削減余地がある	
	人件費の削減余地がある	
	どちらも削減余地がない	
公平性	受益と負担の適正化余地	市内全体の勤労青少年を対象としているため、受益機会は均等である。
	受益機会の見直し余地がある	
	費用負担の見直し余地がある	
総合評価	今年度の振り返り	若年者のニーズに呼応した各種講座を展開したことが寄与し、勤労青少年ホームにかかる講座開催回数および講座受講者数について前年比で減少となった。
	次年度に向けて	勤労青少年の交流及び憩いの場の創出により利用者向上に取り組む。